令和8年度　学校評価表 （中間）

三原市立沼田東小学校（校番12）

a 学校教育目標	夢や目標に向かって、ともに伸びる子供の育成 ～目標をもつ、チャレンジ、思いやり～	【ミッション】 志を抱き、その実現に向け、行動できる『未来の作り手』の育成 【ビジョン】 「夢や目標の達成に向け、ともに伸びる子供の育成」 <めざす学校像>「なりたい自分」をめざして、安心してチャレンジできる学校 <めざす子ども像>「共感的なかかわり合いを通して、「ともに伸びよう」とする子供 <めざす教職員像>「『ともに伸びよう』とする児童の育成に向け、協働、切磋琢磨する教職員」

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための具体的方策	f 評価項目	目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	評価 ロ	評価 ハ	m コメント
確かな学力	主体的に考え、深い学びを追究する児童の育成	授業力の向上	○学習規律の徹底 ○書かせたいR80から逆算思考で授業の構成を考え、「問い」と「対話」を取り入れた児童が主体的に学ぶ授業づくり ○算数科の見方・考え方を意識した単元・授業づくり	○教職員アンケート 25「書かせたいR80から逆算式で授業を構成し、全教科R80を実施している（作成2分、ペアシェアリング1分、全体シェアリング2分」	授業をもつ教員肯定的評価　4．3以上（5段階評価）	3.3		76%	C	○全教科、全授業においてR80を実施することが、教科の特性や学習内容によっては難しいこともあった。また、時間配分等の課題が残る。 ○算数科においては書かせたいR80から逆算式で授業を構成したり、全授業R80を実施したりすることはできた。また、質的向上も見られた。	○R80の充実に向けた研修 暮会等を活用し、R80の研修を継続することで、教職員の授業改善に生かしたり児童の学びを深めたりしていく。 ○授業づくり 単位時間及び単元構成を見通した授業づくりを推進しすることで、各時間で付けたい力を具体的に想定する。	4			・適正に評価されている。 ・1年生が授業に集中できていた。 ・全国学テの数値は、どこの学校も同じように設定している。今年の目標は昨年度の結果をもとに設定していると思う。今年の6年生は去年の6年生とは違う。現在の6年生が5年生の時の標準学力調査をもとに設定しているのか。昨年度と比較してどうだったのか。以前よりもここまで引き上げたのか。やる気が引き上げられたのかどうかというところを大事に見てほしい。 ・6年生の授業で、グループ学習を見た。あの人数で会話が成立してよく聞いていると思った。
				○児童アンケート【全学年】 3「授業では、課題解決のために最後まで考えている」	平均80%	96%		120%	A	○児童アンケートのいずれの項目も目標値を超えている。 ・課題に対して主体的に考えたり、粘り強く取り組んだりする児童が多数を占める。 ・ペアやグループで活発に対話する姿が見られるが、自分の考えをもてない児童もいることが課題である。	○授業改善 導入場面での問いの設定の工夫や、児童同士の対話活動を意図的に仕組むことで、最後まで主体的に粘り強く考えさせる。 ○効果的な（話したくなる）場面で、対話を取り入れた授業づくりを行う。 何について話し合わせるのか、対話の視点を明確にする。	4			
				○児童アンケート【4～6学年】 7「「算数では、ペアやグループで友達の考えを聞いて、自分の考えと比べ、考えが変わったり自分の考えに自信を持ったりしている」	平均80%	87%		108%	A						
		基礎学力の定着	○「学力分析事業」を活用し、学力調査の結果を取り入れた授業改善の実施 ○朝学習の時間の活用 ○水曜日5、6校時活用による学力調査40p以下児童への対応 ○家庭での学習（各学年×10分） ○読書（月1冊以上）	○全国学力学習状況調査の結果、全国平均＋1ポイント以上	2/2教科	0/2		0%	D	○全国学力学習状況調査は両教科とも、目標値を下回った。 国語：－0.9ポイント、算数：－0.4ポイント ○単元末テスト結果（80点以上の児童の割合） 【知識・技能】　国語64.9%　算数79.7%、 【思考・判断・表現】 国語57.8%　算数65.7% 両観点とも、目標値を下回った。知識・技能と思考・判断・表現の乖離が大きく、「学んだことを生かす」ことに課題がある。	○基礎学力の徹底と向上 「茶ンスタイム」「茶レンジタイム」を効果的に活用し、基礎学力の徹底を図る。 ○数学的な見方・考え方を働かせるための算数の授業 算数科の授業では、児童自身が問題と出合った時に、既習事項を生かしたり、使えそうな考え方がないか考えさせたりするために算数モンスターを活用する等の取組を一層進めていく。	4			
				○標準学力調査（算数）、平均通過率市平均以上の児童の割合	80%以上										
				○単元末テストの結果（国語と算数それぞれ）思考力・判断力・表現力80点以上の児童の割合	国語 80%以上	61%		76%	C						
					算数 80%以上	73%		91%	B						
豊かな心	自他を尊重する心情・態度の育成	規範意識の育成	○沼田東小5つの柱（「靴揃え」「挨拶」「時間厳守」「右側歩行」「黙って掃除」）を守る ○児童会、委員会活動による規範意識の向上の取組 ○生徒指導規定の定期的な見直し	○教職員アンケート 11「児童の変化を見逃さず、人を大切にする指導を徹底して行っている」 12「沼田東小5つの柱（挨拶、右側歩行、無言掃除、履物揃え、時間厳守）について、児童にやり切らそうと、指導や声かけを行っている」	授業をもつ教員平均肯定的評価　4．3以上（5段階評価）	4.35		101%	A	どちらも目標を上回ることができた。 ○職員に繰り返し、児童にきまりを守らせる指導をすることを呼びかけた。 ○多くの児童はきまりを意識して生活できているが、いつでもどんな場面でも、きちんとできているわけではないが肯定的な評価をしている児童もいる。	○定期的な交流の場の設定 ・チーム沼田東として「みんなで支え合い、みんなで育てる」という意識のもと、全教職員で児童に積極的に関わる。 ・継続して職員向けの生徒指導だよりを発行し、先生方の好事例を紹介したり、きまりを守る指導を徹底することを呼びかけたりする。 ○学校生活の多様な場面の画像や動画の活用 ・児童会を中心に6年生が全校に模範となる行動をしていくよう引き続き取り組んでいく。 ・児童会や各委員会等できまり等を守る取組を計画し、頑張っている学級をフィードバックする。	4			・適正に評価されている。 ・「学校が楽しい」と回答する児童の割合を80%としているが、本当は100%をめざしていると思う。 ・アンケートは、その時のできごとが大きく影響する。ずっと悩んでいるわけではない。 ・アンケートはフォローして回答させることが大切だと思う。
				○児童アンケート 10「『生活のきまり』やルールを守って生活している」 11「沼田東小『5つの柱』を全て守っている」	平均85%	97.1%		114%							
		共感的なかかわり合いによる安心・安全な集団づくり	○学習環境調査の結果の活用による、児童実態の把握と具体的支援 ○特別活動（学校全体、学級会活動）の効果的な活用 ○コミュニティ・スクールを中心に、地域や社会がよくなるために自分がすべきことを考える時間を設ける。	○学習環境調査の結果、第1次支援の児童の割合	80%以上	83.1%		103%	A	どれも目標を上回ることができた。 ○学校全体では80%を上回ったが、80%を上回った学年は高学年だけだった。低学年は人間関係に悩みを抱いている児童が20%以上いる。 ○どの学年も80%以上の児童が学校は楽しいと答えていた。学年が上がるにつれて、学校が楽しいと答える児童が減っている。 ○地域に貢献したいという気持ちの児童は多い。貢献していることが実感できるように指導を工夫していくことが必要。	○学活など特別活動を中心に、児童が学級への帰属意識が高まる取り組みを行っていく。 ○教師が率先して望ましい行動をしている児童を積極的に価値づける。 ○アンケート結果で気になる回答をしている児童を中心に、きめ細やかな声掛けを行う。 ○スマイル班活動（縦割り班活動）での清掃活動や月に1回のスマイル班遊びを充実させ、多くの児童と関わる機会を持たせる。 ○総合的な学習の時間や生活科の学習を充実させるために、コミュニティスクールを活用するとともに、地域に貢献できる活動を取り入れ、地域に発信することができる取組を積極的に行う。	4			
				○児童アンケート 12【1・2年生】沼田東の町や町の人について、もっと知りたい、行ってみたいと思っている。 12【3～6年生】沼田東の地域や、社会にどんなことができるか考えている（実行している）	80%以上	94.2%		117%							
					80%以上	88.5%		110%							
健やかな体	生涯にわたって健康を維持しようとする態度の育成	生涯にわたって運動しようとする態度の育成	○休憩時間の外遊びの奨励 ○楽しく、運動量がある体育科の授業 ○体力テストの課題「握力」「ボール投げ」解消のためのサーキットトレーニング、ACPの活用 ○ミニ体力テストの実施	○児童アンケート 17「休憩時間は外で体を動かすことが好きだ」	85%以上	71.1%		84%	B	○目標値を上回ることができなかった。 ・外遊びをする児童としない児童の二極化が顕著である。 ・外遊びをするよう声掛けが不足していた。 ○目標値を達成できた。 ・グループでめあてを考え、活動し、一定の達成感を味わう授業展開が効果的であった。 ○目標値を上回ることができなかった。 ・全校で取り組んだが、効果の進捗を検討する必要がある。 ・体力テストの結果から、長座体前屈・反復横跳び・20mシャトルラン・50m走の向上に向けた取組が必要である。	○外遊びの推進 ・体育委員会と連携し、縦割り班活動の充実や大縄跳び大会を実施し、外遊びの機会を増やしていく。 ○体育科授業の充実 ・ICT機器を効果的に活用し、身体をどう動かすのか、視覚的に伝え、児童の意欲を育む。 ・グループと個で活動する内容を適切に盛り込み、児童に達成感を味わわせる。 ○サーキットトレーニング、ACPの実施 ・夏季休業中に、全教職員にACPの実践例を紹介する実技研修を行った。これを基に、新体力テストの課題克服に向けて、より一層の充実に取り組んでいく。	4			・適正に評価されている。 ・12月にドッジボール大会を地域の体育部で計画している。子ども達のアンケートをベースに選んでいる。当日来た人数でチーム編成をする。興味をもってもらえるとうれしい。
				○児童アンケート 18「体育の授業は楽しく体を動かしている」	85%以上	94.8%		115%	A						
				○体育の授業におけるサーキットトレーニング、ACPの実施	100%	89%		89%	B						
信頼される学校	校長のビジョンを具体化しようとする教職員の育成　達成	主任を中心とした機能的で協働的な組織による校務運営	○学校運営に積極的に参画する職員 ○主任を中心とした月1回の部会を活用し、校務を円滑に遂行	○教職員アンケート 1「学校目標の達成に向け協働し、教育活動を行っている」 3「自己の職務について、自己の責任として遂行している」	教職員の肯定的評価平均4．8以上	・4.6 ・4.4		93%	B	○どちらも目標値を上回ることができなかった。 ・各部、各学年の取組が学校教育目標のどの部分を高めるためのものなのかを全員が意識し切れなかった。	○方向性をそろえる ・それぞれの取組が、学校教育目標のどの部分を高めるかを、各部や学年主任会でしっかりと協議・共有したうえで、暮会において全体共有し進めていく。 ○困り感の共有と心理的安全性の確保 ・月1回の学年主任会で、困っていることを共有し、助け合ったり協働し合ったりできる風土をつくる。	4			・適正に評価されている。 ・仕事の見通しを持つための一元化の資料を是非活かしてほしい。 ・よりよいものに変えていくことは大切である。 ・今年度は異動してきた先生が多いので、変えていきたいと思う時がチャンスだと思う。
				○教職員アンケート 5「主任として、学年や部を主体的に運営し、他の職員を指導、支援し人材育成を行っている」（主任のみ）	主任の肯定的評価平均4．3以上	4.0		93%	B	○目標値を上回ることができなかった。 ・情報が一元化されておらず、担当の仕事の進め方を調べるのに時間がかかっていた。 ・年間での具体的な見通しをもてないまま、目前の仕事に追われていたため、人材育成に十分力を注げなかった。	○一元化システムの構築 ・各部・各学年の仕事を年間で見通せる一覧表を作成し、実施計画書等も確認できるシステムを作り、運用する。 ・部員の能力を見極めて役割分担をし、職能を上げる機会を作るとともに、具体的な評価をすることで、主体的に業務を行いたくなる環境を作る。	4			
		働き方改革による教職員の意識改革	○ワークライフバランスをはかり、自身の仕事に誇りとやりがいをもつ教職員の育成	○全教職員が、時間外勤務時間、月平均45時間未満達成	100%	100		100	A	○4～9月　20名（100%）達成。 ・仕事の優先順位を考え業務を行ったり、声かけをしたりすることができている。	○木曜日に設定している成績処理タイムが定着してきた。学年部や部会の業務内容を計画的に実施できるよう声かけを継続する。	4			・適正に評価されている。 ・「仕事にやりがいを感じている」について、新しく異動してきた先生は、学校に慣れるまでに何ともいえないストレスを感じている。どのように組織としてフォローするかが大切。「やりがい」として感じるのは難しい。子ども達の姿を見ると、去年から引き継いで頑張っているのは分かる。
				○教職員アンケート 10「仕事にやりがいを感じている」	教職員の肯定的評価平均4．3以上	4.0		93%	B	○全員肯定的評価ではあったが、達成感にはばらつきがあった。	○分掌や学年の業務をこなすだけに終わらないように、見通しをもって業務を行っていく。引き続き、お互いに助言し合ったり認め合ったりできる職場環境を作っていく。	4			

【自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）<100
C：60≦（もう少し）<80　D：（できていない）<60

イ：自己評価は適正である。
ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。